

第2回保健医療社会学アジア地域会議

THE SECOND ASIAN CONFERENCE ON HEALTH AND MEDICAL SOCIOLOGY

—— 都市化と保健医療問題 ——

参加のご案内

1986年8月11日(月)～14日(木)

千葉県・浦安市文化会館

主 催 : 保健・医療社会学研究会

後 援 : 日本学会議

文部省

厚生省

外務省

千葉県

浦安市

国際社会学会・医療社会学研究部会

社会科学と医学に関する国際会議

WHO西太平洋地域事務局

WHO東南アジア地域事務局

日本社会学会

千葉県医師会

千葉県歯科医師会

千葉県看護協会

世界が21世紀を迎えようとして、アジアの諸国が直面している2つのテーマがあります。

それは、人口の急激な増加と人間の高齢化で、前者は主として発展途上国に、後者は先進国に見られます。いずれも大都市の中心課題であることはいまでもありません。しかし今日先進国とよばれる日本も、わずか半世紀前頃までは、都市にはスラムが多く、“多産多死”の状態にあったのであります。それが都市化の進展のなかで、若干の改善をみたのは、単に、技術としての保健医療の向上だけではなく、都市環境をめぐる社会的条件の改善も大きく役立っています。

この点において日本社会学界で、医療社会学が果たした役割は極めて大きく、その経験はアジア諸国の保健医療の進歩にもかなり参考になると確信しています。また日本の社会で高齢化といえば直ちに社会の病理現象と見る風潮に対して、医療社会学はその誤りを指摘し、アジア諸国の保健・衛生の経験のなかに、「長命」が果たしている役割のあることを明らかにすることが出来ます。

第2回会議は、このような大志をもった集まりであることにご理解をいただき、期待する成果がえられますようご協力願えれば幸いです。

第2回保健医療社会学アジア地域会議
組織委員会
会 長 磯 村 英 一

ご参加の皆様へ

Dear Professor Isomura and Potential Participants:

The First Conference on Health and Medical Sociology held in Japan some five years ago gave an important impetus to the development of medical sociology in Asia. It is time for a second meeting.

I have had the great pleasure of meeting with you, Professor Isomura, and your colleagues on the Organizing Committee and am well impressed with the details of your plans for the Second Conference to be held in Urayasu City, Chiba Prefecture, Japan, 11-14 August, 1986 with the theme: "Urbanization and Health Systems."

Urbanization is a worldwide phenomenon of near raging proportions in some countries with very serious consequences for health conditions and services. This subject deserves the kind of full examination planned for the Second Conference.

Given the thought and work which has gone into the Second Conference, I expect it to be a great success in at least two respects: 1) collegial exchange and further development of medical sociology, in all Asian countries; and 2) probing, critical examination of socio-economic conditions and processes of urbanization with a view to improving human health and services.

On behalf of the Research Committee on the Sociology of Medicine of the International Sociological Association, it is a pleasure for me to offer our endorsement and to be a co-sponsoring body of the Second Asian Conference on Health and Medical Sociology.

With every best wish for a successful conference,
Sincerely,



Ray H. Elling, Ph.D.
Chairperson, RC15 of the ISA
国際社会学会・医療社会学研究部会部会長
レイ・H・エリング博士

保健医療問題の原因の解明や解決にとって、単なる生物医学的アプローチのみならず社会科学との学際的アプローチの必要性が増大しております。社会学を中心とする社会科学と医学との学際的アプローチの要請に応えるため、1974年に「保健・医療社会学会」が組織され、地道に発展してまいりました。1980年に、神奈川県やトヨタ財団のご援助により「第1回保健・医療社会学アジア地域セミナー」を同年8月25日から28日まで4日間、横浜で開催いたしました。主題は「プライマリ・ヘルス・ケアの社会的戦略」であり、主としてアジアの発展途上国が保健医療資源の不足のなかで、どのようにして保健医療サービスや国民・住民の健康を確保するかが、報告・討議されました。アジア諸国から9名、欧米諸国から8名、国内から約150名が参加し、今回とはほぼ同様の政府機関、学術団体、国際機関の後援を得て、それらからも参加者を得ました。

今回の第2回会議ではアジア諸国を中心とした「都市化と保健医療問題」を主題とします。これはアジア諸国の多くが発展途上国として、多くの社会問題に直面していますが、なかでも都市部における急激な人口集中による保健医療問題が深刻であるためです。この発展途上国における人口の都市集中とそれに伴う農漁村の過疎化は発展途上国が先進国主導の国際経済に巻き込まれているためです。したがって、このような問題の実態や解決法については、アジアの発展途上国の代表、欧米の専門家、及び問題の解決に一応の成果をあげ、アジアの問題の解決について協力する義務がある日本からの参加者による国際会議での討議が積み重ねられる必要があります。今回の会議もその一つとして寄与することが期待されます。

とくに今回の会議開催地である千葉県・浦安市は日本で最も人口増が急激であり、最も新しく市制が敷かれた所で、会議のテーマである「都市化と保健医療問題」を討議するのに恰好の場所です。さらに、東京ディズニーランドがあり、国際都市宣言を出した市でもあり、熊川好生市長以下市民ぐるみで今回の会議開催に全面的に協力しています。沼田武知事をはじめとする千葉県のご協力も多大です。

開催地の浦安市や千葉県の事例の報告・検討をはじめ、現地視察もプログラムに入っております。

会議の運営は磯村英一組織委員会会長の下に、組織委員会、プログラム委員会、運営委員会、事務局が一致団結して最善をつくす所存です。

会議での報告は、後に示してある課題別に招待報告者と応募報告者により行われます。参加者はアジアをはじめとする外国からの約40名を含め150名程度を予定しています。この会議の主題に関心のある方々のご参加をお待ちしております。

保健・医療社会学会

代 表 園 田 恭 一

委員名簿

<組織委員会>

名誉会長 山本 幹夫 帝京大学客員教授
 会長 磯村 英一 前東洋大学学長
 副会長 旗野 脩一 国立公衆衛生院部長
 副会長 園田 恭一 東京大学教授

 委員 赤井 つる 千葉県看護協会会長
 青井 和夫 津田塾大学教授
 東 俊郎 順天堂大学名誉教授
 大道安次郎 関西学院大学名誉教授
 福島 一郎 順天堂大学教授
 福武 直 社会保険研究所所長
 橋本 正巳 埼玉県立衛生短期大学学長
 池田 一巳 浦安市保健福祉部長
 紀伊国三 筑波大学教授
 小林富美 前日本看護協会会長
 小泉 明 東京大学教授
 古屋野正伍 名古屋商科大学教授
 小酒井 望 順天堂大学浦安病院長
 見藤 隆子 千葉大学教授
 三友 雅夫 立正大学教授
 宮坂 忠夫 女子栄養大学教授
 森本 基 日本大学教授
 森岡 清美 成城大学教授
 中川 米造 大阪大学教授
 中野 進 京都私立病院協会会長
 那須 宗一 淑徳大学学長
 能美 光房 東京歯科大学教授
 大谷 藤郎 社会福祉・医療事業団理事
 利 輝彦 前病院管理研究所所長
 斉藤 貞雄 千葉県歯科医師会会長
 桜井 義也 千葉県医師会会長
 作田 啓一 京都大学名誉教授
 杉 山 政孝 東京国際大学教授
 杉山 太幹 千葉県衛生部長
 田中 恒男 東京大学名誉教授
 高臣 武史 国立精神衛生研究所所長
 内田 昭夫 千葉大学教授
 綿貫 讓 上智大学教授
 山手 茂 茨城大学教授
 吉田 亮 千葉大学医学部長

<プログラム委員会>

委員長 杉 政孝 東京国際大学教授
 副委員長 旗野 脩一 国立公衆衛生院部長
 委員 相磯 富士雄 東京学芸大学教授
 姉崎 正平 病院管理研究所主任研究官
 芦沢 正見 国立公衆衛生院室長
 井手 信子 浦安市役所係長
 川田 智恵子 東京大学講師
 木下 安子 東京都神経科学総合研究所副参事研究員
 北原 竜二 信州大学教授
 古屋野正伍 名古屋商科大学教授
 前田 信雄 国立公衆衛生院室長
 中野 秀一郎 関西学院大学教授
 那須 宗一 淑徳大学学長
 西 三郎 東京都立大学教授
 阪上 裕子 国立公衆衛生院主任研究官
 園田 恭一 東京大学教授
 山手 茂 茨城大学教授
 米林 喜男 順天堂大学助教授
 内田 雄造 東洋大学助教授

<運営委員会>

委員長 園田 恭一 東京大学教授
 副委員長 米林 喜男 順天堂大学助教授
 委員 姉崎 正平 病院管理研究所主任研究官
 芦沢 正見 国立公衆衛生院室長
 岩瀬 義夫 浦安市健康増進課課長
 宗像 恒次 国立精神衛生研究所主任研究官
 村瀬 滋生 浦安市役所国際交流担当主査
 佐久間 淳 埼玉県立衛生短期大学教授
 佐藤 林正 順天堂大学助手
 山崎 喜比古 東京大学助手

<事務局>

事務局長 姉崎 正平 病院管理研究所主任研究官
 副事務局長 米林 喜男 順天堂大学助教授
 事務局長 江頭加奈子 米国・ソト精神衛生研究所精神衛生相談員
 宗像 恒次 国立精神衛生研究所主任研究官
 中村 健 浦安市企画財政部室長補佐
 佐藤 林正 順天堂大学助手
 島内 憲夫 順天堂大学講師
 山崎 喜比古 東京大学助手

総合案内

1. 開催期間 1986年8月11日(月)～8月14日(木)

2. 開催場所 浦安市文化会館

Ⓣ272-01 千葉県浦安市猫実1-1-2

(電話) [REDACTED]

3. 会議日程

	午前			午後		夕
8月10日(日)				市民講演会	登録	歓迎会
8月11日(月)	登録	開会式	基調講演	報告と討議Ⅰ		
8月12日(火)	報告と討議Ⅱ			報告と討議Ⅲ	特別講演	
8月13日(水)	分科会			総括討議(アピルを含む)		送別懇親会
8月14日(木)	視察および討議					

4. 公用語

日本語、英語(同時通訳が行われます)

5. お問い合わせ先

事務局 Ⓣ113

東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学医学部保健社会学教室内
 (電話) [REDACTED]

事務局分室 Ⓣ100

東京都千代田区内幸町2-2-1
 日本プレスセンタービル4階
 日本コンベンションサービス株式会社内
 (電話)
 (ファクシミリ) [REDACTED]

学術プログラム

<テーマ>

「都市化と保健医療問題」

基 調 講 演 : 人類の歴史における都市化と保健医療問題
報告と討議Ⅰ : 人口の急激な都市集中とその対策
報告と討議Ⅱ : 都市における社会病理と保健医療問題
報告と討議Ⅲ : 家族および地域社会の変容と保健医療制度
特 別 講 演 : 千葉県における都市化と保健医療問題
分 科 会 : 都市化による保健医療問題解決のための社会的戦略

1. 主要議題

- I 人口の急激な都市集中とその対策
 1. 過密、密集住居をめぐる社会、経済、文化的諸問題
 2. 環境汚染地域の保健医療問題への社会的対応
 3. 都市環境における心身の健康
(例:騒音、交通マヒ、事故、環境衛生など)
- II 都市における社会病理と保健医療問題
 4. 都市の疾病危険人口の社会的背景
(例:老人の孤独、青少年の逸脱、主婦の不安、勤労成人の身体疾患など)
 5. 都市化に伴う疾病構造の変化
(例:アルコール中毒、麻薬乱用、性病など)
 6. 社会的競争激化に伴う精神障害の拡大
(例:ストレス、ノイローゼ、精神分裂病など)
- III 家族および地域社会の変容と保健医療制度
 7. 都市の保健医療福祉の供給体制づくり
(例:プライマリ・ケア、在宅ケア、救急医療システムなど)
 8. 患者・家族・住民の保健医療への対応
(例:セルフ・ケア、コンシューマー・ヘルス、ホリスティック・ヘルス、民間医療など)
 9. 新しいコミュニティ・ネットワーク、ソーシャルシステムの形成
 10. ヘルス・ケアと女性の役割

2. 視察プログラム

日 時 : 1986年8月14日(木)
場 所 : 浦安市および京葉工業地域
参加費 : 1名 5,000円(会議当日お申し込み下さい。)

社交行事

歓迎会（浦安市長主催）

日 時：1986年8月10日（日）

午後6時（予定）

場 所：浦安市文化会館

参加費：無料

送別懇親会（会長主催）

日 時：1986年8月13日（水）

午後6時（予定）

場 所：サンルートプラザ東京

参加費：5,000円

<申込方法>

参加希望者は同封の登録用紙の送別懇親会欄に人数を記入し参加費は登録費と合わせて、同時にお振込下さい。

尚、収容人数に限りがございますのであらかじめご了承下さい。

<取消し>

登録に準じて、取消し手数料を申し受けます。

宿泊案内

参加者の方々の便宜をはかるため会議期間中、浦安市文化会館の近くのサンルートプラザ東京を確保しております。

ホテル名		室料（一泊につき）バス付き	
		シングル	ツイン
サンルートプラザ東京	Eタイプ	¥ 7, 200	¥ 10, 800
	Dタイプ	¥ 14, 400	¥ 16, 200

* 上記料金に税金（10%）とサービス料（10%）が加算されます。

* 食事は含まれていません。

お申込みは下記の要領で受け付けておりますので同封の申込み用紙に必要事項をご記入の上、下記宛ご送付下さい。その際、予約金1室につき¥15,000をお振込下さいませようお願い致します。（振込人の氏名は会議参加者と同一名にして下さい。）お振込の入金が確認され次第宿泊予約確認書を送付致します。ホテル到着時にフロントへ提出していただきご出発の際に予約金を差し引いた金額をご精算下さいませようお願い致します。

申込み締切日
申込書送付先

1986年6月20日
東京都千代田区神田松永町19-2
近畿日本ツーリスト(株)東京外人旅行センター
(電話) XXXXXXXXXX
担当者 XXXXXXXXXX

予約金振込先

銀行名 : 第一勧業銀行 御徒町支店
口座名 : 近畿日本ツーリスト(株)東京外人旅行センター
口座番号 : 普通口座 1178230

取消し料

文書にて近畿日本ツーリスト(株)にご連絡があった場合
到着日の7日前まで 取消し料無料
到着日の6日前より2日前まで 一泊料金の20%
到着日の前日以降 一泊料金の全額

※上記ホテル以外のご宿泊も受け付けます。

尚、会議当日はお盆休みのため、市内混雑が予想されますので、サンルートプラザ東京でのご宿泊をお薦め致します。

THE SECOND ASIAN CONFERENCE ON HEALTH AND MEDICAL SOCIOLOGY

-Urbanization and Health Systems-

Announcement

August 11(Mon.) - 14(Thur.) 1986

Cultural Hall Urayasu

Chiba Prefecture, Japan

Hosted by: The Japanese Society of Health and Medical Sociology

Supported by: Science Council of Japan
Ministry of Education, Science and Culture
Ministry of Health and Welfare
Ministry of Foreign Affairs
Chiba Prefectural Government
Government of Urayasu City
International Conference on Social Science and Medicine
Research Committee on Medical Sociology, the International
Sociological Association
WHO Regional Office for the Western Pacific
WHO Regional Office for the South East Asia
The Japan Sociological Society
Chiba Prefectural Medical Association
Chiba Prefectural Dental Association
Chiba Prefectural Nursing Association

INVITATION

As the 21st century approaches, developing countries will continue to undergo population growth, while developed countries will face rapid aging of populations. The impacts of these demographic facts will be felt most in the cities of the world, where the problems of resource allocation and the design and maintenance of human service systems offer profound challenges. During the period of modern urbanization, important progress has been made not only in the development of medical technologies but in the improvement of social conditions.

The contribution of medical sociology has been considerable in Japan, where the effects of a demographic transition have been experienced over a remarkably short period of time. Only fifty years ago, Japan's urban areas were plagued with slums and diseases. Today, Japan is actively developing human service system alternatives that will be responsive to the needs of the nation's aging population. For Japan and other Asian nations, the facts of urbanization and demographic transition demand special consideration. The experiences in Japan hold considerable value for Asian countries which are in the process of developing advanced health care systems. In Japan, medical sociology has had a positive influence on attitudes toward aging, and medical sociology can also help to demonstrate the important contributions of the aged to society in other Asian nations.

I sincerely hope that the Second Asian Conference on Health and Medical Sociology will provide a timely forum to address the challenges of urbanization and health systems. I look forward to a broad-based, cooperative effort, international participation, and exciting results.



Eiichi Isomura, Litt.D.
President
The Organizing Committee for
The Second Asian Conference on
Health and Medical Sociology

GREETINGS

Dear Professor Isomura and Potential Participants:

The First Conference on Health and Medical Sociology held in Japan some five years ago gave an important impetus to the development of medical sociology in Asia. It is time for a second meeting.

I have had the great pleasure of meeting with you, Professor Isomura, and your colleagues on the Organizing Committee and am well impressed with the details of your plans for the Second Conference to be held in Urayasu City, Chiba Prefecture, Japan, 11-14 August, 1986 with the theme: "Urbanization and Health Systems."

Urbanization is a worldwide phenomenon of near raging proportions in some countries with very serious consequences for health conditions and services. This subject deserves the kind of full examination planned for the Second Conference.

Given the thought and work which has gone into the Second Conference, I expect it to be a great success in at least two respects: 1) collegial exchange and further development of medical sociology, in all Asian countries; and 2) probing, critical examination of socio-economic conditions and processes of urbanization with a view to improving human health and services.

On behalf of the Research Committee on the Sociology of Medicine of the International Sociological Association, it is a pleasure for me to offer our endorsement and to be a co-sponsoring body of the Second Asian Conference on Health and Medical Sociology.

With every best wish for a successful conference,
Sincerely,



Ray H. Elling, Ph.D.
Chairperson, RC15 of the ISA

PURPOSES OF THE CONFERENCE

There are increasing needs not only for a biomedical approach but also for an interdisciplinary approach including the social sciences to clarify and solve the cause of health systems problems. To meet these needs for an interdisciplinary approach based on social sciences, medicine, and sociology, the Japanese Society of Health and Medical Sociology was organized in 1974. It developed very steadily. In 1980, it held a four-day international conference entitled "The First Asian Seminar on Health and Medical Sociology" in Yokohama from August 25 to 28, financially supported by the Kanagawa Prefectural Government, the Toyota Foundation, and many other organizations. The main theme was "The Social Strategy of Primary Health Care." The main topic reported and discussed was how developing countries should ensure health care services and public health given the deficiency of health care sources. The conference had nine participants from Asia, eight from the USA and Europe, and about 150 from Japan. It was sponsored by governmental, scientific, and international organizations as is the second conference, and enjoyed the participation of those organizations.

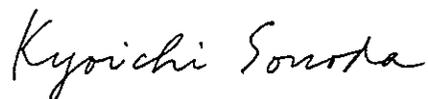
The main theme of the second conference is "Urbanization and Health Systems." This theme was selected because, among the many social problems which many developing countries in Asia face, health systems problems caused by the rapid gravitation of population to cities are very serious. This gravitation of population to cities and the attendant depopulation of agricultural and fishing villages are the result of developing countries involved in an international economy led by developed countries. Therefore, to understand the present status of such problems and find a way to solve them, representative of developing countries in Asia, experts from the USA and Europe, and participants from Japan, all of whom have had fruitful results in finding solutions to these problems to some extent, are obliged to cooperate fully to solve the problems of Asia and make efforts to create as many chances as possible for relevant discussions of international conferences. We expect that this conference will contribute to this.

Urayasu City of Chiba Prefecture, the conference site and Japan's newest municipality is facing the most rapid urbanization in the nation. It is the best place to discuss the main theme of the second conference, "Urbanization and Health Systems." It is the site of Tokyo Disney Land in addition, and Urayasu has declared itself an international city. The people of Urayasu, including mayor, Yoshio Kumagawa, are fully cooperating with the opening of the second conference. We greatly appreciate the cooperation of the Chiba prefectural government, including prefectural governor, Takeshi Numata. We are planning to have reports and discussions on examples dealing with Urayasu City and Chiba prefecture, as well as study tour program.

The organizing committee, the program committee, the steering committee and the secretariat are going to make every effort to ensure the success of the Conference under president of the organizing committee, Eiichi Isomura.

At the conference, invited and general speakers will present papers on different topics. We estimate about 150 participants including some 40 from Asia and many other countries.

We are looking forward to meeting many participants interested in the main theme of the second conference.



Kyoichi Sonoda, Dr. HLTH. Sc.
Representative
The Japanese Society of
Health and Medical Sociology

COMMITTEE MEMBERS

Organizing Committee

- Former President: Mikio Yamamoto, M.D. (Visiting Professor, Teikyo Univ.)
President: Eiichi Isomura (Former President, Toyo Univ.)
Vice-President: Shuichi Hatano, M.D. (Director of Epidemiology, National Inst. of Public Health)
Vice-President: Kyoichi Sonoda (Professor, Univ. of Tokyo)

Members:

- Tsuru Akai (President, Chiba Prefectural Nursing Assn.)
Kazuo Aoi (Professor, Tsudajuku Univ.)
Toshiro Azuma, M.D. (Professor Emeritus, Juntendo Univ.)
Yasujiro Daido (Professor Emeritus, Kanseigakuin Univ.)
Ichiro Fukushima, M.D. (Professor, Juntendo Univ.)
Tadashi Fukutake, (Director-General, Inst. of Research for Social Development)
Masami Hashimoto, M.D. (President, Saitama Prefectural Coll. of Health Sciences)
Kazumi Ikeda (Director, Dept. of Health and Welfare, Urayasu City Government)
Kenzo Kiikuni (Professor, Univ. of Tsukuba)
Fumie Kobayashi (Former President, Japanese Nursing Assn.)
Akira Koizumi, M.D. (Professor, Univ. of Tokyo)
Shogo Koyano (Professor, Nagoya Univ. of Commerce & Business Adm.)
Nozomu Kozakai, M.D. (President, Juntendo Univ. Urayasu Hospital)
Takako Mito (Professor, Univ. of Chiba)
Masao Mitomo (Professor, Rissho Univ.)
Tadao Miyasaka, M.D. (Professor Emeritus, Univ. of Tokyo)
Motoi Morimoto, D.D.S. (Professor, Nihon Univ.)
Kiyomi Morioka (Professor, Seijo Univ.)
Yonezo Nakagawa, M.D. (Professor, Univ. of Osaka)
Susumu Nakano, M.D. (President, Kyoto Private Hospital Assn.)
Soichi Nasu (President, Shukutoku Univ.)

Mitsufusa Yoshimi (Professor, Tokyo Dental College)
Fujio Otani, M.D. (Former Director-General, Bureau of Medical Affairs,
Ministry of Health and Welfare)
Teruhiko Saburi, M.D. (Former Director-General, National Inst. of
Hospital Adm.)
Sadao Saito, D.D.S. (President, Chiba Prefectural Dental Assn.)
Yoshiya Sakurai, M.D. (President, Chiba Prefectural Medical Assn.)
Keiichi Sakuta (Professor Emeritus, Univ. of Kyoto)
Masataka Sugi (Professor, Tokyo International Univ.)
Taikan Sugiyama, M.D. (Director, Dept. of Health, Chiba Prefectural
Government)
Tsuneo Tanaka, M.D. (Professor Emeritus, Univ. of Tokyo)
Takeshi Takatomi, M.D. (Director-General, National Inst. of Mental Health)
Akio Uchida, M.D. (Professor, Univ. of Chiba)
Joji Watanuki (Professor, Sophia Univ.)
Shigeru Yamate (Professor, Univ. of Ibaragi)
Mitsuru Yoshida, M.D. (Dean, School of Medicine, Univ. of Chiba)

Program Committee:

Chairperson: Masataka Sugi (Professor, Tokyo International Univ.)
Vice-Chairperson: Shuichi Hatano, M.D. (Director, Dept. of Epidemiology,
National Inst. of Public Health)

Members:

Fujio Aiso, M.D. (Professor, Tokyo Gakugei Univ.)
Masahira Anesaki (Senior Researcher, National Inst. of Hospital Adm.)
Masami Ashizawa M.D. (Head, Div. of Epidemiological Theory,
National Inst. of Public Health)
Nobuko Ide, S.R.N. (Chief, Sec. of Health Promotion and Public Health Nursing,
Urayasu City Government)
Chieko Kawada (Lecturer, Univ. of Tokyo)
Yasuko Kinoshita, S.R.N. (Senior Researcher, Tokyo Metropolitan Inst.
for Neuro-Sciences)
Ryuji Kitahara (Professor, Shinshu Univ.)
Shingo Koyano (Professor, Nagoya Univ. of Commerce and Business Adm.)

Nobuo Maeda (Head, Div. of Social Security, National Inst. of Public Health)
Shuichiro Nakano (Professor, Kanseigakuin Univ.)
Soichi Nasu (President, Shukutoku Univ.)
Saburo Nishi, M.D. (Professor, Tokyo Metropolitan Univ.)
Hiroko Sakagami (Senior Researcher, National Inst. of Public Health)
Kyoichi Sonoda (Professor, Univ. of Tokyo)
Yuzo Uchida (Associate Professor, Toyo Univ.)
Shigeru Yamate (Professor, Ibaraki Univ.)
Yoshio Yonebayashi (Associate Professor, Juntendo Univ.)

Steering Committee:

Chairperson: Kyoichi Sonoda (Professor, Univ. of Tokyo)
Vice-Chairperson: Yoshio Yonebayashi (Associate Professor, Juntendo Univ.)

Members:

Masahira Anesaki (Senior Researcher, National Inst. of Hospital Adm.)
Masami Ashizawa, M.D. (Head, Div. of Epidemiological Theory, National Inst. of Public Health)
Yoshio Iwase (Head, Div. of Health Promotion, Urayasu City Government)
Koji Munakata (Senior Researcher, National Inst. of Mental Health)
Shigeo Murase (Chief, Sec. of International Affairs, Urayasu City Government)
Kiyoshi Sakuma (Professor, Saitama Prefectural College of Health Sciences)
Shigemasa Sato (Assistant, Juntendo Univ.)
Yoshihiko Yamazaki (Assistant, Univ. of Tokyo)

Secretariat:

Secretary-General: Masahira Anesaki (Senior Researcher, National Inst. of Hospital Adm.)
Treasurer: Yoshio Yonebayashi (Associate Professor, Juntendo Univ.)

Members:

Cecilia Kanako Kashima (Mental Health Worker, Seattle Mental Health Inst.)

Koji Munakata (Senior Researcher, National Inst. of Mental Health)

Takeshi Nakamura (Deputy Chief, Div. of Planning and Finance,
Urayasu City Government)

Shigemasa Sato (Assistant, Juntendo Univ.)

Norio Shimanouchi (Lecturer, Juntendo Univ.)

Yoshihiko Yamazaki (Assistant, Univ. of Tokyo)

GENERAL INFORMATION

1. Date & Site

Date: August 11(Mon.) - 14(Thur.), 1986

Site: Cultural Hall Urayasu

1-1-2 Nekozone, Urayasu City, Chiba Prefecture
272-01, Japan

Phone: XXXXXXXXXX

2. Conference Schedule

	Morning			Afternoon		Evening
August 10 (Sun.)				Public Lectures	Regis- tration	Welcome Reception
August 11 (Mon.)	Regis- tration	Opening Ceremony	Keynote Address	Presentation & Discussion I		
August 12 (Tues.)	Presentation & Discussion II			Presentation & Discussion III Special Lecture		
August 13 (Wed.)	Group Discussion			Plenary Session		Farewell Party
August 14 (Thur.)	Study Tour and Discussion					

3. Official Language

Simultaneous interpretation in English and in Japanese.

4. Correspondence

Headquarters

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

c/o Dept. of Health Sociology

Faculty of Medicine, University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113, Japan

(phone) [REDACTED]

Secretariat

c/o Japan Convention Services, Inc.

Nippon Press Center Bldg.

2-2-1 Uchisaiwai-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 100, Japan

(phone) [REDACTED]

SCIENTIFIC PROGRAM

1. Program

Discussion Theme

URBANIZATION AND HEALTH SYSTEMS

- Keynote Address: Urbanization and Health Systems Problems in Human History
- Presentation and Discussion I: Measures Concerning Rapid Concentration of Population into Urban Areas
- Presentation and Discussion II: Social Pathology and Health Systems Problems in Urban Areas
- Presentation and Discussion III: Health Services and Changing Family and Community
- Special Lecture: Urbanization and Health Systems Problems in Chiba Prefecture
- Group Discussion: Social Strategies for Solving Health Systems Problems Caused by Urbanization

2. Call for Papers

(1) Abstract Topics

- I. Measures Concerning Rapid Concentration of Population into Urban Areas
 1. Social, economic, and cultural problems with overpopulation
 2. Social measures for health care problems in environmentally polluted areas
 3. Mental and physical health in the urban environment (e.g. noise, traffic jams, accidents, environmental hygiene)

- II. Social Pathology and Health Systems Problems in Urban Areas
 - 4. Social background of city populations with disease risk (e.g. loneliness of elderly people, juvenile delinquency, anxiety of housewives, and psychosomatic diseases of workers)
 - 5. Changes in disease structure with urbanization (e.g. alcoholism, drug abuse, and sexually transmitted diseases)
 - 6. Mental disorders caused by severe social competition (e.g. stress, neurosis, and schizophrenia)

- III. Health Services and Changing Family and Community

- 7. Establishment of a system providing health welfare in urban areas (e.g. primary care, home care, emergency system)
- 8. Measures for health care for patients, family, and inhabitants (e.g. self-care, consumer health, holistic health, and traditional health care systems)
- 9. Establishment of a new community network and social system
- 10. Health care and the role of women

- (2) Application for Presentation

Those who wish to contribute a paper are requested to choose your theme from the above abstract topics and send the enclosed Abstract Form to the Secretariat by April 15, 1986. Notification of acceptance of the suggested topic for presentation will be sent out by May 31, 1986. Details will be sent together with the notification of acceptance. The Program Committee will make final decisions about the acceptance of abstracts.

- (3) Submission of Abstract

Abstracts should be typed on the Abstract Form within the specified space, using an electric typewriter, in a form suitable for direct offset printing. Your Abstract should be written in English.

(4) Visual Aids

For Oral Presentation, one 35 mm slide projector and one overhead projector will be available. Video tapes cannot be used. Please use 35 mm slides in 50 mm x 50 mm metal, plastic or paper mounts. All slides should bear a serial number, the name of the speaker and an arrow to show the direction to be inserted. All figures and tables are to be prepared in English.

3. Study Tour Program

Date: August 14 (Thur.), 1986

Site: Urayasu City and Keiyo Industrial Area

Fee: ¥ 5,000

Those who wish to take part in the Study Tour Program should apply at the Conference Site.

REGISTRATION

Participation is open to all persons interested in the Conference. The registration fee includes entry to all scientific programs and to some of the social programs.

(1) Registration Fee

	By May 31, 1986	On or after June 1, 1986
Active Participant	¥ 20,000	¥ 25,000

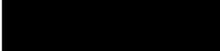
To be eligible for the reduced fee, the fee and Registration Form must be received by the Secretariat by May 31, 1986.

(2) Application

Those who wish to attend the Conference should fill out the Registration Form and return it to the Secretariat.

Send to: Secretariat

The Second Asian Conference on Health and Medical Sociology

c/o Japan Convention Services, Inc.
Nippon Press Center Bldg.
2-2-1, Uchisaiwai-cho, Chiyoda-ku,
Tokyo 100, Japan
Phone: 
Telex: 

(3) Remittance Procedure

Payment of registration and other fees should be made in Japanese yen by bank draft made payable to the Second Asian Conference on Health and Medical Sociology. Bank draft should be addressed to the Bank of Tokyo, Ltd. If this is impossible for some reason, please contact the Secretariat.

No personal checks can be accepted.

Deadline for Remittance July 15, 1986

(4) Cancellation

Cancellations should be made in writing to the Secretariat. The amount of refund will depend on the date of cancellation. All refunds will be made after the Conference.

by July 15, 1986 75% of the total shall be refunded
on or after July 16, 1986 No refund

SOCIAL PROGRAM

1. Welcome Reception (Hosted by the Mayor of Urayasu)

Date : August 10 (Sunday), 1986

Time : Evening

Place: Cultural Hall Urayasu

Dress: Informal

2. Farewell Party (Hosted by the President)

Date : August 13 (Wednesday), 1986

Time : Evening

Place: Sunroute Plaza Tokyo

Fee : ¥5,000

Dress: Informal

(Application)

Those who wish to participate in the Farewell Party should check the appropriate box on the Registration Form and remit the fee together with the registration fee.

(Cancellation)

The same cancellation terms, as in the case of registration, will apply to the social program fee.

The Organizing Committee would like to respond to the wishes of both participants and accompanying persons by introducing Japanese life and culture. If you are interested, please let us know in advance what your interests are.

TRAVEL INFORMATION

Hotel Reservation:

Kinki Nippon Tourist Co., Ltd. (KNT) has been appointed the official travel agent for The Second Asian Conference on Health and Medical Sociology. KNT holds rooms at Sunroute Plaza Tokyo, near the Conference site, for participants to the Conference.

Sunroute Plaza Tokyo	Single Room	Twin room
Economic	¥7,200	¥10,800
Deluxe	¥14,400	¥16,200

A 10% tax and a 10% service charge will be added to your bill.

Those who wish to make hotel reservations are requested to return the enclosed Hotel Reservation Form with a deposit of ¥15,000 per room to the following address before June 20, 1986.

Send to: Kinki Nippon Tourist Co., Ltd.
Foreign Tourist Center, Tokyo
19-2, Kanda Matsunaga-cho
Chiyoda-ku, Tokyo 101 Japan

Hotel Deposit:

Remittance should be made only by a bank draft in Japanese yen. No personal checks will be accepted. Please remit the deposit of ¥15,000 with the hotel reservation form.

Cancellation Charge:

If a written cancellation notice reaches Kinki Nippon Tourist Co., Ltd.

Up to 7 days prior to check-in date	no charge
2-6 days prior to check-in date	20% of daily room charge
Less than 2 days, or no notice given	100% of daily room charge

Climate and Clothing:

The climate of Japan is usually hot and humid around the time of the Conference. The average temperature in August is 29°C (84°F). The best clothing in Japan at this time is lightweight. Dress for all events will be informal.

Foreign Currency Exchange:

Major banks that exchange foreign currencies are located in the downtown area. Banks are open from 9:00 a.m. to 3:00 p.m. on weekdays, and from 9:00 a.m. to noon on Saturdays.

They are closed on Sundays, national holidays and on the second Saturday of every month. Also major currencies can be exchanged at major hotels. However, attendees are advised to exchange around ¥20,000 in cash at the airport to cover the cost of transportation to downtown Tokyo.

Traveller's Checks and Credit Cards:

Traveller's checks are accepted only by leading banks and major hotels in major cities, and you should be aware that using traveller's checks in Japan is not as popular as in some other countries. Major credit cards such as American Express, Visa, Master Card and Diners Club are also accepted at such locations. However, attendees are advised to have some Japanese yen in hand.

Travel Assistance:

Japan Travel-Phone is a toll-free telephone service, in operation every day including Saturday and Sunday from 9:00 a.m. to 7:00 p.m. An English speaking travel expert is ready to help you and to offer travel information. The number in Tokyo is 502-1461. While you are outside of Tokyo, dial 106 and tell the operator in English "Collect call, TIC, please." You will be connected immediately with TIC (the Travel Information Center). For such calls, you can use yellow or blue public phones, or a private phone. Collect calls cannot be made from red public phones.

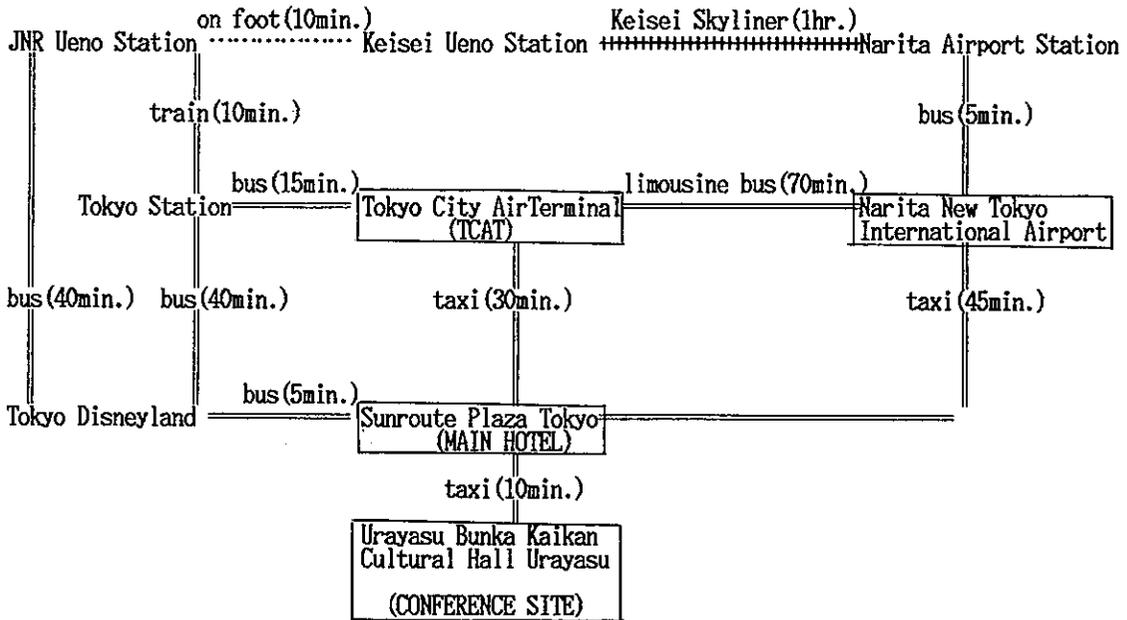
Passports and Visas:

Every foreign visitor entering Japan must be in possession of a valid passport. Attendees from countries requiring visas should apply to the Japanese consulate offices or diplomatic missions in their countries before the departure. Visas are valid for two months for tourists, and 15 days for persons "in transit." An entrance visa is not necessary for citizens of the following countries.

Argentina	Austria	Bahamas
Bangladesh	Belgium	Canada
Chile	Colombia	Costa Rica
Cyprus	Denmark	Dominican Republic
El Salvador	Finland	France
F.R. Germany	Greece	Guatemala
Honduras	Iceland	Iran
Ireland	Israel	Italy
Lesotho	Liechtenstein	Luxembourg
Malaysia	Malta	Mauritius
Mexico	Netherlands	New Zealand
Norway	Pakistan	Peru
Portugal	San Marino	Singapore
Spain	Surinam	Sweden
Switzerland	Tunisia	Turkey
United Kingdom	Uruguay	Yugoslavia

A cholera certificate will be necessary if coming from an infected area. For details, participants are advised to contact their local agents or carriers.

Access to Urayasu Area:



*** RECOMMENDED ACCESS TO THE SUNROUTE PLAZA TOKYO**

From Narita New Tokyo International Airport

*** BY TAXI**

- Taxi (Airport-Hotel) 45 min. approx. ¥15,000

*** BY LIMOUSINE AND TAXI**

- Limousine bus (Airport-TCAT) 70 min. ¥2,500
 - taxi (TCAT-Hotel) 30 min. approx. ¥4,000

*** BY KEISEI TRAIN**

- Keisei bus (Airport-Airpot Station) 5 min. ¥190
 - Keisei Skyliner (Airport Sta.-Keisei Ueno Sta.) 1 hour ¥1,490
 - Walk (Keisei Ueno Sta.-JNR Ueno Sta.) 10 min. -----
 - Bus to Disneyland (JNR Ueno Sta.-Tokyo Disneyland) 40 min. ¥600
 - Hotel shuttle bus (Tokyo Disneyland-Hotel) 3 min. free

